

令和2年度第1回アスベスト大気濃度調査検討会

議 事 概 要

1. 日 時

令和3年3月5日（金）15:00～16:40

2. 場 所

Webによるリモート会議形式

3. 出席者

(座長) 山崎 淳司
(委員) 貴田 晶子、小西 淑人、寺園 淳、平野 耕一郎
小坂 浩（欠席）
(環境省) 長坂大気環境課長
石山大気環境課課長補佐
藤沢大気環境課排出基準係長
(事務局) 株式会社環境管理センター

4. 議 題

- (1) 令和2年度アスベスト大気濃度調査結果について
- (2) 令和2年7月豪雨の被災地におけるアスベスト対策支援等業務について
- (3) 令和3年度アスベスト大気濃度調査計画について
- (4) その他

5. 配付資料

資料1 令和2年度アスベスト大気濃度調査結果について
資料2 令和2年7月豪雨の被災地におけるアスベスト大気濃度調査結果について
資料3 令和3年度アスベスト大気濃度調査計画について
参考資料1 精度管理報告書【委員限り】
参考資料2 解体現場の地点図及び現場写真【委員限り】
参考資料3 SEM分析結果一覧表【委員限り】
参考資料4 No.2地点 測定結果まとめ【委員限り】
参考資料5 No.46地点 測定結果まとめ【委員限り】

6. 議事概要

(1) 令和2年度アスベスト大気濃度調査結果について

①継続調査地域及び令和2年度調査地域について

- ・ノザワフラノ工場の排気装置の更新とは、具体的にどうなっていたか。(貴田委員)
⇒ 排気(集じん排気装置)の入れ替え又はメンテナンスをした可能性がある。(事務局)
- ・発生源が事業所なのか。ズリ山なのか。(貴田委員)
⇒ いずれなのかはまだ確認できていない。(事務局)
- ・ズリ山は、常に乾燥状態なのか粘土質なのか。ズリ山の現状はどうなのか。(貴田委員)
⇒ ズリ山は使用部分だけ、シートをはがし、ホースで散水しながら、湿潤状態で、工場に運んでいる。工場へ運ぶ際は、乾燥ではなく、湿潤して、ベルトコンベアにのせて工場に運ぶ。通常は飛散ないように、シートをかけている。(小西委員より回答)
- ・熱処理の状況はどうなっているのか。会社からの情報が必要ではないか。熱処理がどのくらいなのかわからない。(平野委員)
⇒ 実際にズリを熱処理している所は、本調査が環境省の調査のこともあり、中まで立ち入りができない。そのため、状況を詳細に確認することが難しい。集じん排気装置の入れ替え、メンテナンスをしてはいるが、今年度の値は、濃度的にも長年堆積したものが、排気装置からの漏れ出てきている可能性も考えられるので、今後も確認が必要。(小西委員より回答)
- ・旧石綿製品の製造工場や事業所等の発生源を抑えているのは重要。(寺園委員)

②地点No.46 破砕施設について

- ・日本は蛇紋岩地域が多いので、注目すべきではないのか。コンクリートガラ等の砕石の再利用施設なのか。(貴田委員)
⇒ 破砕施設へ搬入しているのは、コンクリートガラやアスファルト、U字構などである。(事務局)
- ・熊本県の測定でトレモライトがかなり検出されている。地点近くにあるのか。(平野委員)
⇒ 破砕施設の周辺にトレモライトを含有する地盤等があるかどうかは確認できていないが、大気環境測定の結果にトレモライトがあることは確認できている。その測定結果のトレモライトが、ガラ等からきているのか地盤からきているのか、詳しくはわからない。(事務局)
- ・積み込んでいたガラ等の物を調べられれば良い。来年度継続するのであれば、積み込んでいたガラ等のサンプルを貰ってほしい。(小西委員)
⇒ 検討する。(事務局)

③解体現場について

- SEM 分析は、除去建材と別の成分が検出されることはあったのか。(貴田委員)
 - ⇒ 今回の現場で、東京都、埼玉県ともにレベル3の建材であり、みなし建材として扱っている。実際には石綿含有量の分析をしていないので、何が入っているかはわからない。今回は、ろ紙上の繊維をSEMで分析した結果、クリソタイルだったので、おそらくクリソタイルが建材に含まれていると推察した。(事務局)
- データ表にどこを採取したか明記した方が良い、図面が見にくい。(貴田委員)
 - ⇒ 記載する。(事務局)
- 本検討会の内容や資料をオープンにする場合、どの程度の情報をまとめて出されるのか。参考資料2の中で、No.44 作業場近傍状況、レベルの表記・建材、敷地境界の設定など見やすい資料にしてほしい。(寺園委員)
 - ⇒ 今回の検討会については、クローズではなく、YouTube ライブ配信で公開している。資料1~3に関しては、環境省のHPで公開するが、参考資料は、委員限りのためHP等には掲載しない。(事務局)
- 養生の中での測定か外の測定かは重要、表3に情報を含めて明記してほしい。手作業による解体作業と記載しているが、これからレベル3の解体現場が増えていくので、作業や養生がどの程度のばらされ方をしているかなどの参考写真等を記載してほしい。(寺園委員)
 - ⇒ 記載する。(事務局)
- 参考資料3の表では、No.41のクリソタイルの数値が「0」となっている。(平野委員)
 - ⇒ Excelの数値教示の桁数が異なっている可能性があるため、数値を確認する。(事務局)
- 資料1のp5の表3で、レベル3で負圧管理を行っていない通常隔離の状況で、近傍だけが石綿が確認されている。外側の敷地境界ではでていないということは、負圧を伴わない隔離で一定の効果はあったと判断してよいのか。今後の大防法の改正に伴い、「負圧はしなくていいが、隔離養生はする」となったが効果があると判断したらいいのか。(小西委員)
 - ⇒ 今回の主にけい酸カルシウム板第1種の解体現場では、解体住宅の周囲に、防音シートで簡易養生をしていた。四隅には隙間があり、完全には隔離養生とよべる状況ではなかった。大防法改正後のけい酸カルシウム板第1種の除去の場合に求められるしっかりした隔離ではなく、実際には、防音シートで外と中が分かれている作業場所を示唆していると想像されるので、隔離の程度を見ないと判断は難しい。(事務局)

(2) 令和2年7月豪雨の被災地におけるアスベスト対策支援等業務について

①令和2年7月豪雨の被災地におけるアスベスト対策支援等業務について

- ・どんな状況で測定し、豪雨によって出たがれき等の様子がわからない。各地点の情報が必要でないか（貴田委員）
⇒ 後ほど委員に送付する。（事務局）
- ・どれだけの物があって、いつ処分されたか、また、進行度合いを知りたい。（貴田委員）
⇒ がれき集積場の状況は、公費解体が始まっていたので随時搬入されて、分別・仕分けし、最終的に中間処理場・最終処分場に搬出する形で動いている。量は市町村ごとに変わっている。球磨村、人吉市については、災害規模が大きかったことからがれき類がかなり多く搬入されていた。公費解体が始まる前の集積場は、災害からかなり時間が経っていたため、災害ゴミに関しては、整理されているもしくは、処理されている状況であった。（事務局）
- ・解体されたものが、搬入された場所なのか。最終処分場の取り扱いの集積場なのか。（貴田委員）
⇒ がれき集積場が最終処分場ではない。がれき集積場に一度公費解体されたがれき類が集められ、そこから分別・仕分けされ、中間・分別処理や最終処分場に搬入される。一次集積場のような役割である。（事務局）
- ・表2をまとめる際、地域分類・区分を記載してほしい。一般環境かがれき集積場なのか分からない（寺園委員）
⇒ 表記、精査する。（事務局）

(3) 令和3年度アスベスト大気濃度調査計画について

①継続調査地域について

- ・委員意見 特になし

②継続地点 No.2「旧石綿製品製造事業場等」の調査箇所について

- ・基本的に測定を減らすことは同意した。
地点⑥、⑦、⑪、⑫は、ズリ山を囲むように測定している。ズリの問題を考え、ズリ山周辺の測定点は残した方がよい。
地点⑧は、人の集まる場所であり、風向きによって排気装置からの気流を受ける位置なので外さない方がよい。
地点②は必要があるのか。
ズリの影響をみるかみないかの判断を議論した方がよい（小西委員）
- ・工場かズリ山からかが、見比べられるように設定した方が良いのでは。（貴田委員）
⇒ 地点②を除外、地点⑩を残し、ズリ山周辺地点として測定し、地点⑦をズリ山

に近い場所で測定する形ではどうか。(事務局)

⇒ 了解した。(委員より)

- ・次年度に測定する際には、ズリの掘削作業と、工場の排気装置が動いている状況を確認し、ズリを採取する日と工場が稼働している日を含めて調査してほしい(小西委員)

⇒ 工場と調整する。(事務局)

③熊本県内破碎施設の測定について

- ・同様の破碎施設もあると思うので、別の破碎施設も2箇所程度調査した方が良いのでは。また、地質的な環境等も見ていった方が良いのではないか。(貴田委員)

⇒検討する。(事務局)

以上